

世界詩人全集

4

キ ー ツ シ ェ リ ー 詩 集 ワーズワス

安藤一郎 星谷剛一 加納秀夫 訳

新 潮 社

世界詩人全集 4

キーツ

シェリー 詩集

ワーズワス

昭和四十四年四月十五日印刷
昭和四十四年四月二十日発行

価五〇〇円

訳者 安藤 一郎
星 谷 剛 一

加 納 秀 夫
佐 藤 亮 一

発行所 株式会社 新潮社

郵便番号一六二
東京都新宿区矢来町七一
電話(280)二二振替東京六三

印刷所 大日本印刷株式会社
製本所 新宿 加藤製本所



(乱丁、落丁本はおと
りかえいたします)

○ギリシア古甕のオード

○懈怠のオード

秋に寄せる



×その日は過ぎ去った

V
ファニーに寄せるソネット

○ファニーに寄せるオード

煌く星よ

七 三 二 一 (去) 壹 六 九

シ
エ
リ
ー

理想美にささげる讃歌

ファニー・ゴツドウィン

わがおもい　こどくのうちに

オジマンディアス



すきやうりし日

しおれた莖に

ナポリの近郊にて失意のうちによめ

る詩

イギリスの人びとに

西風に寄せる詩



○インド調小夜曲

ウィリアム・シェリーに

どこかいつそ光にみちた世界で

おたやかな思いのやさしい訪れ

雨

三

1118

—

10

⑤

16

1

5

10

⑤

15

5

1

•

④

①

雲

雲雀に

アボロの讃歌

パンの讃歌

秋——挽歌

月に

世のさすらいびとたち

よい夜を

時

あるひとに

無常

アジオーラ

嘆き

思い出

あるひとに

あるひとに

音楽

二三

二六

二八

三〇

三二

三四

三六

三八

四〇

四二

四四

四六

四八

五〇

五二

五四

五六

詩節

うた

ジェーンに——いざない

ギターにそえ ジェーンに

ジェーンに

二四

二五

二六

二七

二八

ワーズワス

逆説

はしばみ拾い

サイモン・リー 年老いた狐番

ルーシー詩篇

I

II

III

IV

泉

詩人の墓碑銘

ひな菊によせて

かっこうによせて

決心と独立

雲のように孤独な散策者

頌歌

一八

一八

一八

一四

一五

一六

一九

二〇

二七

二三

二七

二〇

三〇

三三

さんぽうげ

ひとり妻を刈る女

哀歌

☆

解説

年譜

二八

二八

二八

二八

二八

キーツ詩集

安藤一郎訳

リー・ハント¹氏が出獄した日に

阿諛^{あず}になれた政府に真実を示したゆえに、

心優しいハントが獄舎につながれたとて何かあらん、

彼は不滅の精神をもつて、空へのぼる

ひばりのごとく自由で、かつ意気旺盛であつた、

威光に頼る者よ！ 彼はじつと待っていたと思ふや？

なんじが不本意ながら鍵をあけるまで、

ただ牢獄の壁だけを見ていたと思ふや？

いや、違ふ！ ハントの身は遙かにもつと幸福で、また高邁^{こうまい}であつた！

スペイン^{スペイン}の館^{ぐん}、うるわしい四阿^{あづまや}にさまよい入り、

ふしぎな花を摘み、また雄々しいミルトンと共に

無限の大空を飛びかけた、

彼本来の天才は自分の領野へと

楽しく飛翔したのだ。なんじとなんじの陋劣^{ろうろう}な一味^{いり}が死んだとき、

※一八一五年二月二日（または三日）の作、十九歳三カ月。処女詩集『詩集』（一八一七）に収録。ソネット。もっとも早期の詩の一つ。

1 Leigh Hunt (1784-1833) イギリスの詩人、評論家、天性のジャーナリスト。「エグザミナー」紙を創刊、ここでシェリー、キーツを新鋭詩人として紹介した。同紙で摂政皇太子（後のジョージ四世）を攻撃したことで、一八一三年二月から二カ年獄舎につなされた。バイロン、ムーア、ヘンタム、ラム等の文人あるいは思想家が支援して、獄舎を訪れた。ハントは獄房に古今の名著をおき、詩人たちの石膏像を並べ、天井には空と雲の絵を描いて、少しも勇気の挫けることがなかった。入獄中もペンを揮って、「エグザミナ

だれがハントの名を傷つけ得ようか？

Written on the Day that Mr. Leigh Hunt Left Prison

おお「孤独」よ！

おお「孤独」よ！ そなたと共に住まなければならぬのなら、

ごたごたと押し合う陰鬱な建物の

あいだはやめてくれ、ぼくといっしょに急坂――

「自然」の展望台を登ろう、そこから谷や、

その花咲く斜面や、川の燦々流れが

指呼に入ってくるだろう、またそなたが昼夜つき添うのなら

天蓋をつくる枝の中がいい、鹿が勢いよく跳ねて

キツネノテブクロから驚いた蜜蜂が飛び立つところ。

だがそういう情景をそなたと嬉しく探めていくにしろ、

やはりことばが優美な想念の形象となる

無垢な心の持主との楽しい語らいが

「紙を続刊したという。キーツは、この頃まだハントに会っていなかった。

※一八一五年十一月の作（推定）、二十歳一カ月。『エグザミナー』紙一八一六年五月五日号に掲載された。キーツの出版物に発表された最初の詩。ソネット。『詩集』に収録。

キーツはハモンド医師のもとを去って、テムズ南岸ロンドン橋近くのデイン街ガイズ・ホスピタルに、外科医となるために入った。ロンドン自治区サザックの中だったが、付近に倉庫や安アパートが多く、ごみごみした貧民街であった。彼は殺風景な環境において、孤独の寂しさに懸命

ぼくの魂の喜びなのだ、それこそは

まことに人間最高の幸福たるべきもの、

そなたのいるところへ二つの親密な精神が脱^{のが}れていくならば。

O Solitude!

長く市に閉じこめられていた者には

長く市に閉^{まち}じこめられていた者には、

天の麗^うわしい晴々とした面^{おもて}に見入ること――

蒼穹^{そうきゅう}のにこやかな笑顔に向って

祈りをもらすことはまことにうれしい。

心満ち足りて、疲れた身を

どこか波うつ草の快い憩^どい場所に沈めて、

愛と気だるさの愉^{あそ}しく優しい物語を

読むときほど幸福なことがあろうか？

夕方に家路をたどりながら、耳に

に堪えていた。

これは、他の詩といっし
よにチャールズ・カウデ
ン・クラークがハントのと
ころへ持っていったのであ
る。

※一八一六年一月の作、二
十歳八カ月。『詩集』初出。
ソネット。

夜啼きうぐいすの調べを捉え——眼は
ただよう小さな雲の輝く行方を見送って、
昼があまりにも早く過ぎ去るのを悲しむ、
あたかも天上の澄んだ霊気の中を

音もなく天使の涙がふりこぼれていくように。

To one who has been long in city penit

薔薇の花を贈ってくれたある友に

先ごろのどかな野原を散歩していたとき、

ひばりがクローバーの茂った隠れ場所から

ふるえる露を払って飛び立つとき——また

冒険好きの騎士ならば新たに凹んだ楯を取りあげるとき、

ぼくは自然が生み出すもつとも美しい花、

咲きそめたジャコウバラを見た。それは

夏にむかって芳香を放つ最初のものの、優美な枝ぶりは

※一八一六年六月二十九日の作。二十歳八カ月。ソネット。『詩集』に収録。

1 麝香のように強い匂いがあり、白色の大きな花をつける薔性の薔薇。キーツの詩にしばしば歌われている。

2 シェイクスピアの『夏の夜の夢』に出てくるオペロンの妻、妖精の国の女王。

3 キーツの弟トムの同級生チャールズ・ウェルズ。なかなか悪戯好きで、すでに肺患がひどく悪くなつて

タイターニア女王²がふるう魔法の杖のようだった。

そして馥郁^{かみ}とした香りをほしいままにしながら、

人がつくる薔薇もとうていこれに及ばないと思った。

だが、ウエルズ君³！ きみの薔薇が届いたとき

ぼく感覚はその甘美さに魅せられてしまった。

きみの薔薇はおだやかな声を持ち、やさしい訴えをこめて

平和と真実と抑えがたい友情のことを囁いた。

To a Friend Who Sent me Some Roses

初めてチャップマン、訳ホーマーをのぞき見て

これまで多くの旅で黄金郷¹をたずね、

またもろもろの美しい国や王土を見てきたし、

詩人たちが恭々^{うやうや}しくアポロに捧げる

西方の島々もわたしはめぐり歩いてきた。

かつて額^{ひたい}の秀でたホーマーが支配したところ、

いたトムに、偽りの女性名前の手紙を送ったところ、十五歳のトムはこれを本当だと思いこんでしまった。キーツは、これを非常に憤って、終生許さないとまで言っていたくらいであった。ウエルズがキーツに薔薇の花束を送ったのは、たぶん和解へのジェスチャーだったであろう。

※一八一六年十月の作、二十一歳。ソネット。『詩集』に収録。英詩の中で最上のものの一つ。

1 George Chapman (1569? ~ 1634) エリザベス朝の詩人、劇作家、翻訳家。キーツは、それまではホメロスの『オデュッセイアー』をボウプ訳でしか読んでいなかったのだが、チャップマン訳をカウデマン

一つの広大な領土のことをよく耳にしたが、その清澄な大気には触れたことがなかった、

チャップマンが思いきって高らかに語るのを聞くまでは。

そのときわたしは新しい惑星が突如視界に入ってきたのを

目にした天体観測者のような思いがした、

あるいはまた驚のような眼で太平洋を睨^{にら}んだ

あの勇猛なコルテス²にもひとしかった——部下たちは

ことごとく盛んな憶測で眼と眼を見交わして——

無言のまま、ダーリエン³の峰の上で。

On First Looking into Chapman's Homer

と共に初めてのぞき、ギリシアの世界に目を開かされた。

2 Fernando Cortez (1485~1548) ス페인人でメキシコ沿岸から内陸へ侵入、アズテック族を制圧、その後カリフォルニア半島を発見した。キーツは、これを太平洋を発見したバルボア Vasco Núñez de Balboa (1475~1517) と混同したのである。

3 パナマ地峡にある一つの大きな峯。インカ王国を滅したスペイン軍人ピサロは、ここを根據地とした。

原书缺页

原书缺页